

## 令和 5 年度 モニタリング結果報告書

## 1 活動の目標等

タイプ名:	【森林資源利用タイプ】
目標:	林内のマツやサクラ等の枯損木や倒木を伐採、集積し、森林の景観を改善する。 最終的に枯損木を全数伐採する
モニタリング調査方法:	100㎡(10m×10m)の調査区を設定し、枯損木等の本数調査を行い、年度ごとの伐採本数を決定し計画的に伐採する。

## 2 活動実施前の標準地の状況 (令和 3 年度)

標準地の状況を記載	区域内には、マツやサクラ、コナラ等の枯損木、倒木が多く、景観が悪化している。 標準地内に8本の枯損木等があった。
-----------	---



「活動前」の年度に上に数字を入れると、  
「活動中」の年度が自動的に入ります。

## 3 活動計画1年目の標準地の状況 (令和 3 年度)

標準地の状況を記載	計画的な伐採と灌木の伐採を行った結果、灌木や枯損木が減少し、林内の見通しも良くなった。
目標達成度	25%(2本/8本)
次年度に向けた改善策	枯損木等の伐採を安全に行うため、伐採木周辺の灌木・下草の伐採・刈払いを行う。



写真は、活動実施前の写真と同じ場所、同じ方向から撮影する

## 4 活動計画2年目の標準地の状況 (令和 4 年度)

標準地の状況を記載	計画的に伐採したことにより枯損木や倒木が減少し、林内の見通しも良くなった。
目標達成度	62%(5本/8本)
次年度に向けた改善策	景観の改善を図るため、枯損木や倒木の伐採を計画的に行う。



## 5 活動計画3年目の標準地の状況 (令和 5 年度)

標準地の状況を記載	計画的に伐採したことにより枯損木や倒木が減少し景観の改善が図られた。
目標達成度	100% (8本/8本)
次年度に向けた改善策	新たに枯損木が発生した際には、その都度、片付けを行うとともに、必要に応じて雑草木の刈払いや除伐も実施する。

(3年目完了写真添付)

(注) 目標の設定及び標準地の状況の記載については、別に定めるガイドラインを参考とすること。



## 令和 5 年度 モニタリング結果報告書

### 1 活動の目標等

タイプ名:	【地域環境保全タイプ(里山林保全活動)】
目 標:	林内の刈払いや灌木類を除去(除伐)することにより、林縁部から奥に30メートル見通しできるようにし、獣害防止や不法投棄を防止する。
モニタリング調査方法:	林縁部から林内に向かって30メートル先に目標を設置し、刈払いにより何メートルまで見通すことができるかを測定する。測定地点は5カ所設定する。

定点調査地は、最低3カ所所以

### 2 活動実施前の標準地の状況 ( 令和 3 年度)

標準地の状況を記載	区域内は、雑草木や灌木が繁茂しており林縁部から林内を見通すことが出来ない。 (視認距離:5m)
-----------	--



「活動前」の年度に上に数字を入れると、「活動中」の年度が自動的に入ります。

### 3 活動計画1年目の標準地の状況 ( 令和 3 年度)

標準地の状況を記載	雑草木の刈払いにより、林縁部から20mの見通しができるようになった。
目標達成度	67%
次年度に向けた改善策	雑草木の刈払いのほか、灌木類を除去(除伐)することにより、林縁部から林内を見通しをさらに確保したい。



写真は、活動実施前の写真と同じ場所、同じ方向から撮影する

### 4 活動計画2年目の標準地の状況 ( 令和 4 年度)

標準地の状況を記載	雑草木の刈払いとともに灌木類の除去により、林縁部から24m見通すことが出来るようになった。
目標達成度	80%
次年度に向けた改善策	雑草木の刈払いのほか、枯損木や倒木を整理して、林縁部からの見通しを良くするとともに、林内環境を改善したい。



作業実施の結果、3年目を待たずに見通しが可能となった場合は、達成度を100%とし、以降の年度も100%とする。

## 5 活動計画3年目の標準地の状況（令和 5 年度）

標準地の状況を記載	雑草木の刈払いとともに枯損木類の除去により、林縁部から30m見通すことが出来るようになった。
目標達成度	100%
次年度に向けた改善策	引き続き、雑草木の刈払いのほか枯損木や倒木を整理して、林内環境を改善したい。



（注）目標の設定及び標準地の状況の記載については、別に定めるガイドラインを参考とすること。